

岡山池田藩由来の岡山後楽園を主な活動拠点として公演し定着してきた

田賀屋狂言会

活動の目的

田賀屋狂言会は、代表田賀屋夙生が約30年前、狂言大蔵流師範の任定を契機に、日本伝統芸能たる能・狂言の維持、普及を願って狂言教室を立ち上げたことから始まる。

岡山は備前池田藩がことのほか能・狂言を庇護育成し、岡山後楽園に能舞台まで作っている。田賀屋狂言会はこの後楽園能舞台を中心に活動し、池田藩が持っていたであろう、教育と文化の普及の伝統を守っていききたいと毎年定期的に公演活動している。

また、その一環として小・中学校での課外授業にもとり入れていただいている。県内外の文化団体、公共団体などからの公演（講演）依頼も来るようになってきていて、狂言の普及に役立っている。



活動の内容及び経過

中心的活動内容は、岡山後楽園で定期的に行う「田賀屋狂言会」であるが、毎年テーマを決めて番組を構成しているが、本年はオリンピックイヤーにちなみ「五輪ピック狂言会」を企画した。しかし、コロナ禍により中止となったため、急遽「病疫退散祈願狂言会」に変更した。番組内容もコロナ退散を願って、“憑き物”退散をもじった「梟（ふくろう）」、鬼を払う「節分（せつぶん）」、仁王尊にコロナ退散を願う「仁王（におう）」を講演して、大いに笑いをとった。

また、岡山教室、玉野教室生の発表会を今年も行ったがいずれもほぼ設営した席数が満席に近かった。

後楽園では、主に外国人の方に日本の文化理解に役立つことを目的に秋の観光シーズンに合わせて狂言の公演を取り入れていただいたが、これは後楽園の特性を生かせるもので、継続的なイベントであろうと期待している。



活動の成果・効果

笑いを取り戻すことは、とかく暗くなりがちな日常を払拭することに役立つし、万病にも良いとされている。また、話題性を持つことによって、狂言への親しみを持っていただけなものとする。

どちらかという、能・狂言はマイナーな芸術とされているが、岡山県人は、意識するとしなにかかわらず、比較的この日本の伝統芸能に接する機会が多い。多くの人は京都や大阪、東京に行かねば鑑賞の機会が少ないが、岡山では後楽園の田賀屋狂言会の定期公演や市民会館などホールでの公演を比較的多く鑑賞する機会があり、またそれを作らねば、と活動してきた。そのほか、小・中学校での課外授業、狂言教室の運営・発表会など行ってきたので、安

定したファンができてきている、と感じる。

本年は新型コロナ禍で多くの公演を中止せざるを得なかったが、三密対策など、細かい対応によってかろうじて実施できた公演は、席数制限をしたとはいいながら、いずれも満席という反応がそれを示していると考えられる。

今後の課題と問題点

思ってもみなかった新型コロナ禍の長期的蔓延が、経済活動のみならず、文化・芸術活動にさえ影を落としている。公演そのもののみならず、練習や準備もままならないこともある。

そういうことと関係あるのか（家族が心配して制限する？）、狂言に関心を持って入門する若い生徒が減少しているので、そのことは意識して対応していきたい。

- 代表者：田賀屋逸生 ●所在地：笠岡市西大島
- TEL：0865-67-0086 ●E-MAIL：usofuki@mx1.kcv.ne.jp
- 設立年：1991年 ●メンバー数：30名